

宗岡中だより



新春号 令和2年1月8日(水)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「爽やかな 雲ひとつなき 初御空」

校長 佐藤哲浩

新年あけましておめでとうございます。年末年始は典型的な冬の西高東低の気圧配置になり、関東地方は連日冬晴れになりました。新春の真っ蒼な澄んだ空に心も洗われ、新年の計を立てていることと思います。本年も本校の教育活動にご支援を賜りますようお願いいたします。



今年の干支(えと)は、「子」(ねずみ)、正確には「庚子」(かのえね)、本来、干支とは十干(甲、乙、丙・・・庚、辛、壬、癸)と十二支(子、丑、寅・・・酉、戌、亥)を組み合わせたものを指します。十干と十二支には、ともに草木の成長に例えられるという共通点があります。10と12の最小公倍数である60、60種類の干支が巡り、60年後に自分の生まれた干支に戻ることを還暦と言います。「庚」とは草木が次の世代を残すために花や種子を準備する段階に入ったことを表し、「子」とは種子の中で新しい命を育てている状態を表します。つまり「庚子」とは、「何かが始まり、未来に向けて育ち始める年」ということでしょうか。2020年は東京オリンピック、パラリンピックの年でもあります。これを機に日本が未来に向けて飛躍することを願っています。

話は変わって、私事になりますが、年末は家の障子の張替えや大掃除をしたり、年始は初詣に行き、そして今年も箱根駅伝を生で見たいため、大手町まで応援に行ってきました。今年で96回目を迎えた箱根駅伝は、青山学院大学陸上部(以下、青学)が10時間45分23秒の大会新記録で2年ぶり5度目の総合優勝を果たしました。今年は5つの大学の実力が拮抗しており、どこが優勝するのか予想が難しいと言われていました。青学も出雲大学駅伝5位、全日本大学駅伝2位と敗れ無冠も覚悟して臨んだ箱根路。しかしながら終わってみれば青学が全区間圧巻の走りで総合優勝しました。大会後、優勝監督(原監督)の記者会見で一番心に残ったことを紹介します。

「強いチームをつくるうえで、監督(指導者)の役割は？」よく聞かれる質問です。私の理想は、監督が指示を出さなくても部員それぞれがやるべきことを考えて、実行できるチームです。つまり指示待ち集団ではなく、「考える」集団。言葉にするのは簡単ですが、考える集団をつくるには、豊かに実る土壌づくりと同様に相応の時間と労力が必要です。人は結果をすぐに求めたがりますが、強いチームをつくるための土壌、つまり環境はすぐに構築できるわけではありません。ただ、その環境を整えれば、誰が監督になっても強いチームであり続けることができると私は考えています。しかし、スポーツ界では監督が交代すると弱体化する光景をよく見ます。一般企業はどうでしょうか？経営者が変わってもそれまでと同じ、いやそれ以上に成長していく企業が沢山あります。スポーツ界でも同じことができるはずだと私は考え、青学陸上部と向き合ってきました。

指導者としてのご示唆をいただいたようです。